



「おしっこ」の検査で、どんなことが調べられるの

「おしっこ」で、いろいろな病気が調べられる

糖尿病 や肝臓、腎臓の病気にかかっているかどうかを調べるためには、おもに「血液」や「おしっこ」をとって検査します。

「おしっこ」の成分の大部分は水ですが、そのほかに尿素・りん酸・カリウム・塩素・ナトリウムがふくまれています。「おしっこ」の検査をして、ふつうにはふくまれていない物や、ふくまれていてもふつうより多く出た場合には、糖尿病 や肝臓・腎臓の病気にかかっていないかどうかを、もっといろいろな方法で調べます。

たとえば、糖尿病 は、糖を体の細胞に取りこむための、インスリンというホルモンが不足し、血液中の糖（血糖）が増えて、「おしっこ」の中に糖が出てくる病気です。そのため、「おしっこ」を検査して、ふくまれている糖の量によって、病気にかかっているかどうかを調べるのです。糖尿病 になると、「おしっこ」の量が多くなったり、神経痛になったり、視力障害などの病気を引き起こしたりします。

「おしっこ」の検査で、朝一番のをとるのは

「血液」や「おしっこ」の成分は、食べ物や飲み物によって変わるので、検査には空腹時のものがよいので、いちばんおなかがすいている、朝一番のものをとるのです。

また、若い人には、「起立性たんぱく尿」という、病気にかかっていなくても、立って歩くと出てくる尿（おしっこ）のたんぱくがあるため、そのたんぱくが混じらないおしっこをとって、調べるため、朝一番のものをとるのです。（監修・保志 宏）

